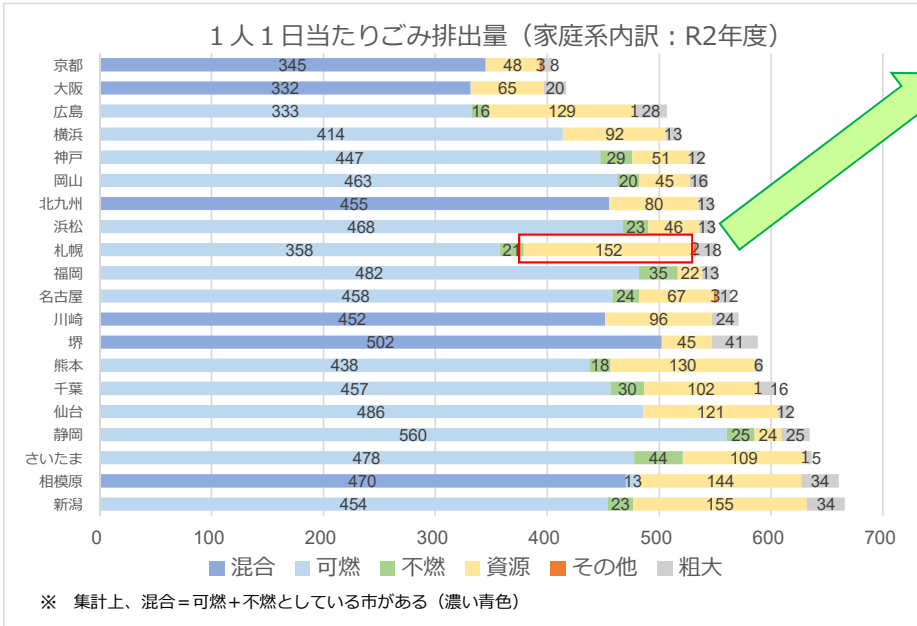


前回懇話会資料



札幌市は、他都市と比較して資源物の排出量が多く、かつ、その割合が大きい

■右表のとおり、「家庭系ごみ全体の排出量」に係る政令市における順位と「資源物の排出量」に係る政令市の順位を比較したところ、大部分の政令市に関しては両者に一定の相関関係が現れている。

■一方、下記の都市については相関関係がない状況。

全体量が少ないにも関わらず、資源量が多い

札幌市 家庭系全体：9位 資源量：19位（27.6%）
 横浜市 家庭系全体：4位 資源量：11位（17.7%）
 広島市 家庭系全体：3位 資源量：16位（25.4%）

全体量が多いにも関わらず、資源量が少ない

静岡市 家庭系全体：17位 資源量：2位（3.8%）
 堺市 家庭系全体：13位 資源量：3位（7.7%）
 福岡市 家庭系全体：10位 資源量：1位（4.0%）
 ※カッコ内の比率は資源量÷ごみ排出量（家庭系）

家庭系全体の順位と資源物の順位の比較(単位:位)

	家庭系全体	資源量	主なステーション回収の対象			
			古紙	雑がみ	容プラ	枝葉草
札幌市	9	19	×	○	○	○
仙台市	16	15	○	○	○	×
さいたま市	18	14	○	○	○	×
横浜市	4	11	×	×	○	×
相模原市	19	18	○	○	○	×
川崎市	12	12	×	○	○	×
千葉市	15	13	○	○	×	○
新潟市	20	20	○	○	○	○
静岡市	17	2	×	×	×	×
浜松市	8	5	×	×	○	×
名古屋市	11	9	×	×	○	×
大阪市	2	8	○	○	○	×
堺市	13	3	×	×	○	×
京都市	1	6	△	○	○	×
神戸市	5	7	×	×	○	×
岡山市	6	3	○	○	×	×
広島市	3	16	○	○	○	×
北九州市	7	10	×	×	○	×
福岡市	10	1	×	×	×	×
熊本市	14	17	○	○	○	×

札幌市の資源量が多い理由（考察）

①資源物の対象の違い

■各都市で行政収集している資源物の対象が異なり(右上表参照)、その違いによる影響が大きいと推測される(例:静岡市、福岡市等では容プラを収集していない等)。なお、環境省で、各政令市の資源物の総量は公表しているが、個々の資源物の内訳に係る公式資料はなく詳細は数字は把握できない状況。

■札幌市では雑がみ(30g/人・日)や枝・葉・草(29g/人・日)が含まれており、その分、他都市に比べ総量が多い状況。

～札幌市の資源物の内訳～

内訳	資源量
びん・缶・ペットボトル	49g
容器包装プラスチック	43g
雑がみ★	30g
枝・葉・草★	29g
合計	152g

※この表は令和2年度実績ベースで、右記②の表は申込ベース(予定量)で比較しているため数字の乖離がある。

②容器包装プラスチック・ペットボトルの排出量が多い

■容器包装プラスチック・ペットボトルの排出量については、一人一日当たりで換算すると政令市の中で一番多い。(日本容器包装リサイクル協会の公表数値による(令和2年度申込ベース))。なお、千葉市、静岡市、岡山市、福岡市は容プラのステーション回収を行っていないため計上せず、また、ペットボトルに関し大阪市と熊本市は独自の処理のため非公式資料から推計。)

★一人一日当たり容器包装プラスチック排出量政令市上位5市

都市	排出量
1 札幌市	38.84 g
2 横浜市	34.91 g
3 広島市	31.49 g
4 仙台市	31.03 g
5 名古屋市	25.54 g

★一人一日当たりペットボトル排出量政令市上位5市

都市	排出量
1 札幌市	10.52 g
2 横浜市	9.73 g
3 仙台市	9.69 g
4 千葉市	8.44 g
5 相模原市	8.41 g

■一方、びん・缶・ペットボトルや容器包装プラスチック製品の流通量や購入量に関し、政令市別の資料はなく、排出量との比較が困難な状況。なお、総務省統計局家計調査によると、飲料(ペットボトル等全ての飲料)に係る政令市別の支出金額は下表のとおりであり、本市は全体10位であって、ペットボトル排出量の多さとの相関関係は認められなく、本市のペットボトルの排出量が多いのは他の要因と推察される。

★飲料に係る支出金額政令市上位5市(一世帯(単身除く)当たり 2019年～2021年平均)

	都市	支出額
1	さいたま市	66,542円
2	千葉市	65,800円
3	川崎市	65,402円
4	横浜市	63,245円
5	仙台市	60,471円
10	札幌市	57,927円